

FGSグローバル アレクサンダー・ガイザーCEOとの懇談会

—現下の情勢で求められる企業のコミュニケーションとは—

2024年10月25日

講師：アレクサンダー（アレックス）・ガイザー FGSグローバル最高経営責任者（CEO）

モデレーター：リード・スティーブソン ブルームバーグ シニアエディター



左からガイザー氏、スティーブソン氏

経済広報センターは10月25日、東京・大手町の経団連会館で「複雑化する国際情勢におけるグローバル企業のコミュニケーションのあり方」に関する講演会を開催した。ブルームバーグのリード・スティーブソン シニアエディターの質問に、戦略的コミュニケーション分野で豊富な知見と経験を有するFGSグローバルのアレクサンダー・ガイザーCEOが答える対談形式で議論を深めた。企業の広報幹部・担当者ら約65人が参加した。ガイザー氏の発言の概要は次のとおり。

■広報は企業幹部と連携して情報を選別し、効果的な発信を

不透明感を増す国際情勢において、企業を取り巻く課題は複雑化し、ステークホルダーとの対話もより効果的なアプローチが求められている。ステークホルダー同士が対立することや、国内外のアクティビスト（物言う株主など）があらゆる観点から企業とその幹部に厳しい要求を突きつけることも少なくない。

そうしたなかで企業の広報部門は、説得力に乏しい無意味な情報（ノイズ）を排除し、自社の幹部と密接に連携することで、正確かつ効果的な情報（シグナル）の送り手になるべきと指摘した。そして、前例踏襲ではなく、内外から情報と知見を結集し、実際に何が起きているかを理解したうえで、経営陣がステークホルダーと自信を持って向き合えるようにすることが重要であると述べた。

また、アクティビストからの攻撃は必ずしも全てがネガティブな要素ではなく、あるべき経営改善の姿を示唆することもある。そのため企業がより積極的に問題に向き合い、イノベーションを創出する機会と捉えて、変革や新たな成長のきっかけとすることもできるとした。

■危機管理において、外部の専門家やメディアの果たす役割は重要

企業の危機の多くは事前に対策を備えておくことで、万が一発生してしまった場合でもスピード感を持って毅然と行動することができる」と強調。その際、外部の専門家から適切な助言を得て、企業のトップや幹部に提言することの重要性を指摘した。

また、企業のレピュテーションリスクを適切に管理する一つ的手段として、客観的な事実を伝えるメディアの役割にも言及。メディアを遠ざけるのではなく、記者と誠実に向き合い、正しい情報を積極的かつ熱意を持って伝えることが有意義なコミュニケーションにつながるとした。

以 上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。